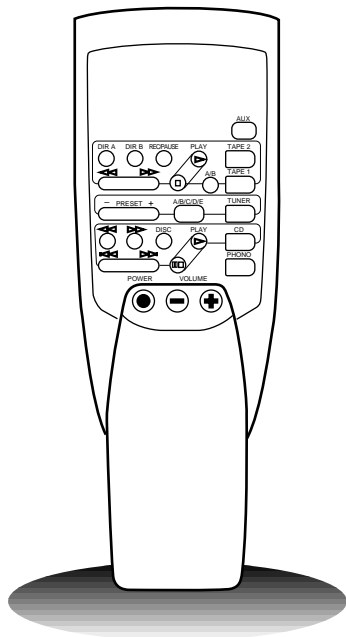
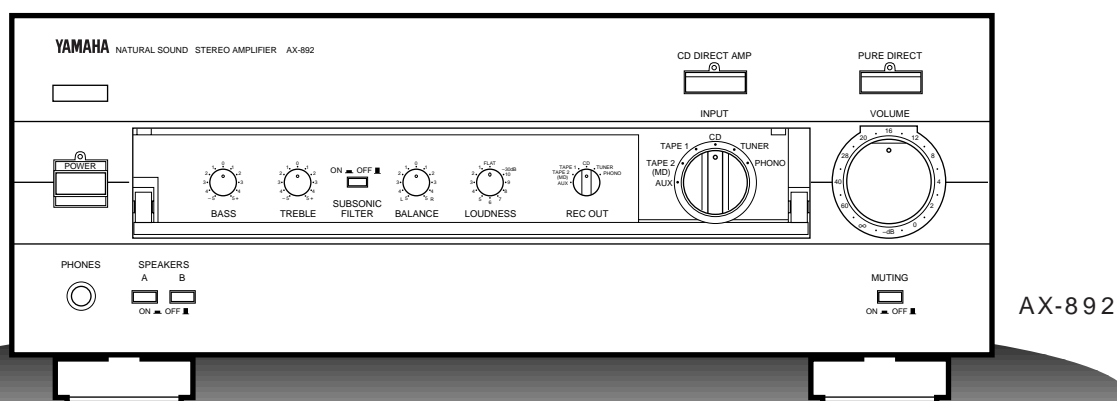


# YAMAHA

## NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

# AX-892 / AX-592

### 取扱説明書



このたびは、ヤマハステレオプリメインアンプ AX-892/AX-592 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

AX-892/AX-592 の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用前に必ずお読みください

# 安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置されるとき		使用中に異常が発生したとき	
<p>本機に水が入ったり、本機をぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p>	<p>電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>	<p>万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなど異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>	<p>万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
ご使用になるとき		<p>絵表示の例</p> <p>指を挟まれないよう注意</p> <p>記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。</p> <p>分解禁止</p> <p>記号は禁止の行為であることを告げるものです。</p> <p>記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。</p>	
<p>本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>			
<p>本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>			



# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき		ご使用になるとき		
	<p>湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p> <p>電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。</p>		<p>接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。</p> <p>電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p> <p>付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>	
	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p> <p>本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点にご注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。</li> <li>・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。</li> </ul>			<p>指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>
	<p>本機を移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>			<p>旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。</p>
		<b>お手入れについて</b>		
	<p>本機を設置する場合は、間隔をおいてください。放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。</p>		<p>1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。</p>	
			<p>お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。</p>	

# 目次

安全上のご注意 .....	2
リモコンの準備 .....	5
各部の名称とはたらき .....	6
接続のしかた .....	9
再生する .....	14
録音する .....	15
タイマー再生 .....	16
参考仕様 .....	17
故障かなと思ったら .....	19
ヤマハホットラインサービスネットワーク .....	裏表紙



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。  
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

## 特長

### ソースのクオリティを生かすピュアダイレクトスイッチとCDダイレクトスイッチ

ソースの持ち味を十分にお楽しみいただくため、ピュアダイレクトスイッチは入力信号をバス、トレブル、バランス、ラウドネス、サブソニックフィルターとプリアウト/メインインの各回路を通さずに直接パワーアンプに送ります。

また、コンパクトディスクのハイクオリティなサウンドを、より劣化の少ない音で楽しんでいただくため、CDプレーヤーとパワーアンプ部をプリアンプのみで直結するCDダイレクトアンプスイッチを装備しています。

### 本格的なセパレート構成

単独使用でも十分な性能のプリアンプとメインアンプの本格的なセパレート設計です。

### 豊富な付属機能と多機能な入出力端子

レックアウトセレクターを独立させ、多様な状況での録音やテープダビングに応えます。

また、グラフィックイコライザーやサラウンドアンプなどの接続を想定し、プリアウト/メインイン端子を装備しています。

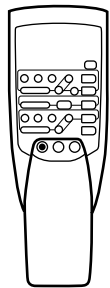
### 集中操作に便利な多機能リモコン

本機の操作はもちろん、本機に接続した他の周辺ヤマハ機器にも対応できる多機能リモコンを付属しています。

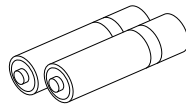
## ご使用の前に

付属品を確認してください。

リモコン



単三乾電池（2本）



この取扱説明書について

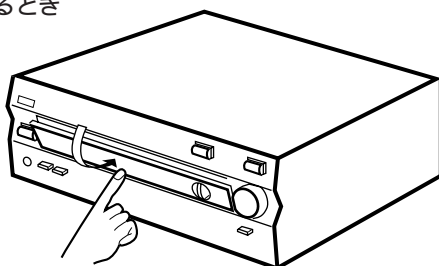
本書はAX-892とAX-592、2機種共通の取扱説明書です。本体の説明にはAX-892のイラストを使用していますが、AX-592と異なる箇所は、そのつど明確に記載してあります。お買い求めになった機種名をご確認の上、お読みください。

例：ミュートスイッチ (MUTING)  
(AX-892のみ)

## コントロールパネルの開閉について

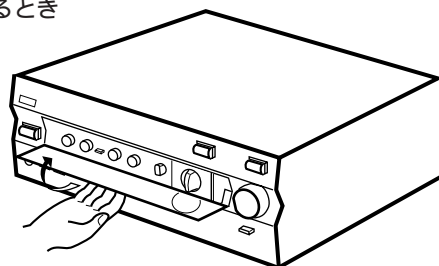
コントロールパネル内のキーを使わないときは、パネルを閉じておくことができます。

開けるとき



コントロールパネルの下側を指で押して開けます。

閉じるとき



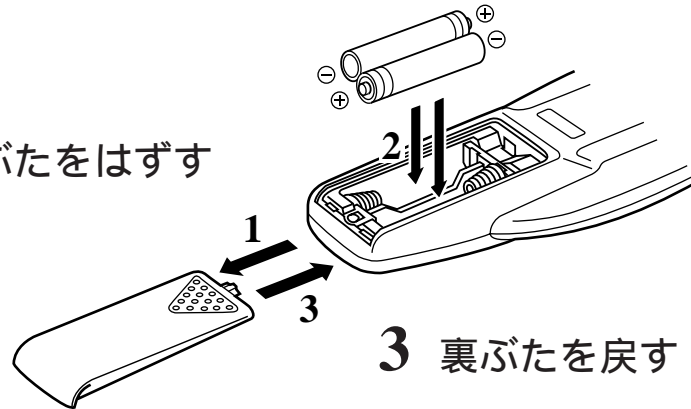
コントロールパネルを下から上に持ち上げるようにして閉じます。

# リモコンの準備

## 乾電池の入れかた

### 2 単3乾電池（2個）を入れる

#### 1 裏ぶたをはずす



#### 3 裏ぶたを戻す

## 乾電池のご注意

乾電池は誤った使い方をすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意してください。

乾電池のプラス $\oplus$ とマイナス $\ominus$ の向きを表示どおりに正しく入れてください。

新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使用しないでください。

種類のちがう乾電池をまぜて使用しないでください。  
同じ形状でも電圧の異なるものがあります。

乾電池が使えなくなったり、本機を長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。

乾電池には充電式と充電式でないものがあります。

乾電池の注意表示をよく見てご使用ください。

液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

## リモコンの使用範囲

### リモコン用乾電池の交換時期

リモコン用乾電池の寿命は通常のご使用で約1年間です。

リモコン受信部に近寄らないと動作をしない場合は、乾電池を交換してください。

### リモコン取扱上のご注意

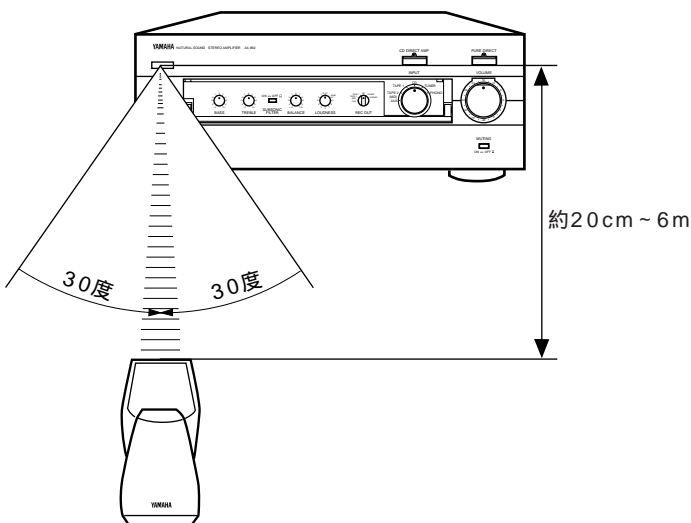
受信部とリモコンの間に障害物があると操作できないことがあります。

リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、温度の高い所には置かないでください。

受信部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっているとリモコンが働きにくくなります。

照明または製品本体の向きを変えてください。

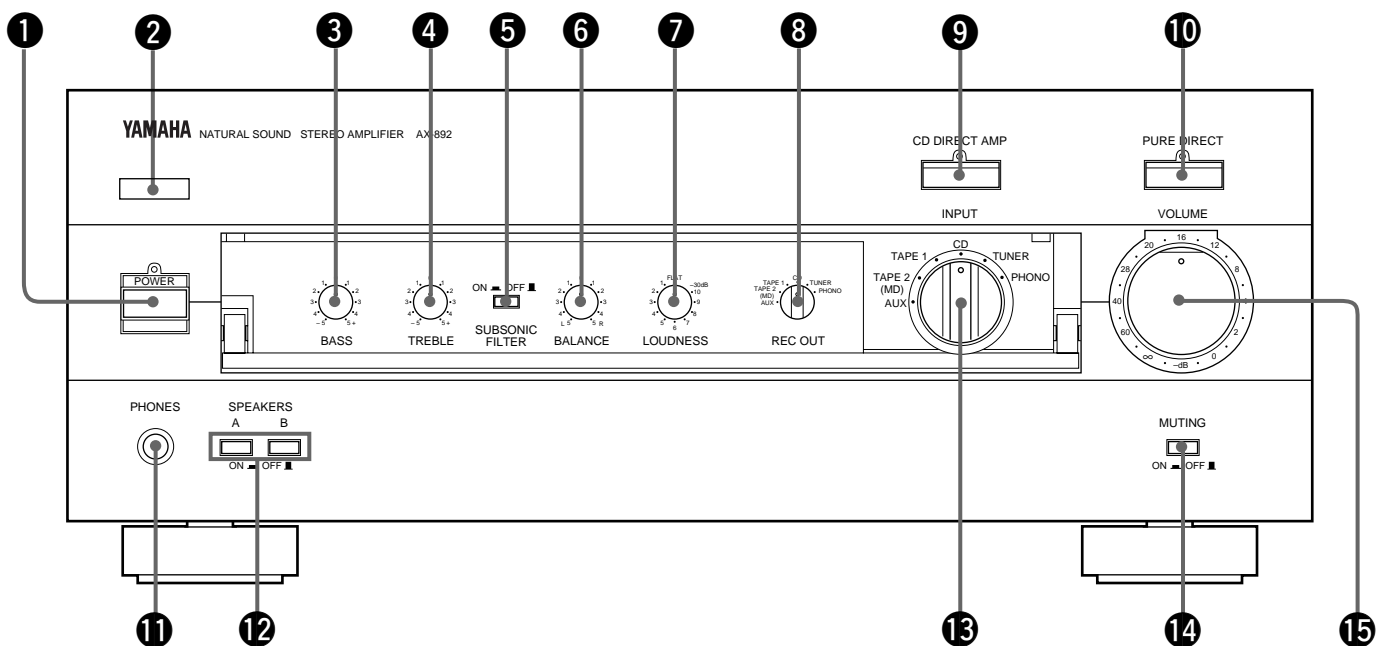
他の機器のリモコンを同時に操作すると、動作をしないことがあります。



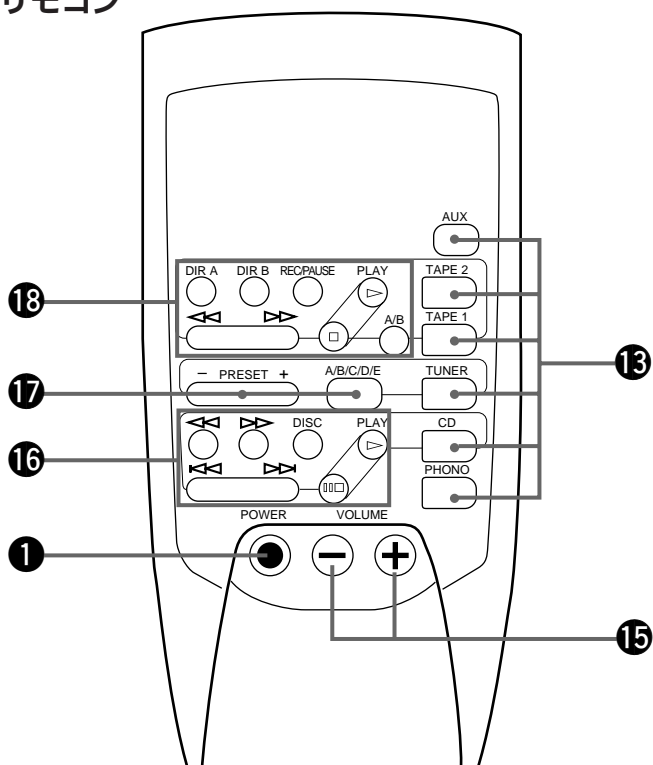


# 各部の名称とはたらき

## フロントパネル



## リモコン



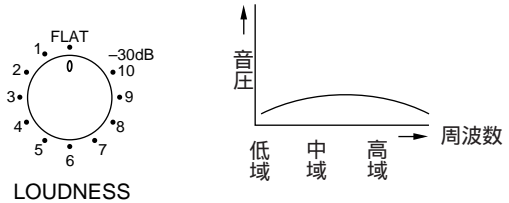
- 1** 電源スイッチ (POWER) / インジケータ  
 本機の電源を入/切します。電源が入るとインジケータが点灯します。  
 電源を入れるときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置 ( ) にしておいてください。  
 電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路がはたらき、音は出ません。
- 2** リモコン受光部  
 付属のリモコンからの信号を受けます。
- 3** バスコントロールツマミ (BASS)  
 低音域を調節します。右 (+) に回すほど低音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“0” の位置で特性はフラットになります。  
 例えば、バスドラムの音に迫力を出したいときに調節します。
- 4** トレブルコントロールツマミ (TREBLE)  
 高音域を調節します。右 (+) に回すほど高音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“0” の位置で特性はフラットになります。  
 例えば、ハイハットシンバルのような歯切れの良い音を出すときに調節します。
- 5** サブソニックフィルタースイッチ (SUBSONIC FILTER)  
 このスイッチを押して “ON” にすると、通常は音楽再生に必要な15Hz以下の超低音域をカットします。  
 レコードのそりなどで発生するスピーカーのコーン紙のフラつきによる歪を最小限に抑えることができます。

- 6** バランスコントロールツマミ (BALANCE)  
左右のスピーカーからの音量バランスを調節します。ツマミを右(左)に回すと左(右)の音が小さくなります。

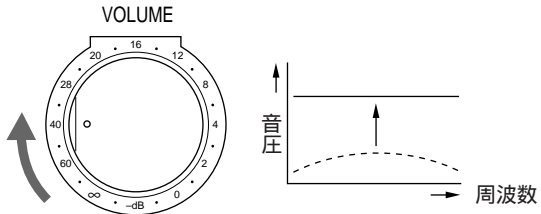
- 7** ラウドネスコントロールツマミ (LOUDNESS)  
人間の聴感には、音量が小さくなればなる程、低音と高音が聴えにくくなるという特性があります。これを補正するのがラウドネスですが、本機では聴いている音量レベルに応じ、補正に必要な量を連続的に可変することができるので、どの音量レベルでも低域から高域まで、不自然なく再生することができます。

ラウドネスの操作方法

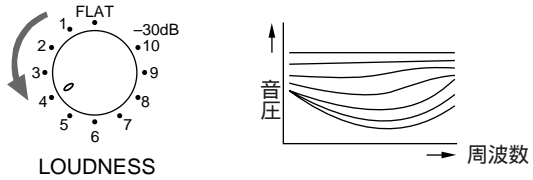
1 ラウドネスコントロールツマミをFLATの位置にします。



2 低域から高域までのバランスが最適になるまでボリュームツマミで音量を上げます。



3 ボリュームは動かさずに、LOUDNESSコントロールツマミを回して、実際にお聞きになる音量まで下げます。音量を下げるに従って補正が強まります。



- 8** レックアウトセレクター (REC OUT)  
録音するソースを選択します。

PHONO:	レコードを録音する
TUNER:	ラジオ放送を録音する
CD:	CDを録音する
TAPE 1:	TAPE 1端子に接続したテープデッキから録音する
TAPE 2 (MD):	TAPE 2 (MD)端子に接続したテープデッキまたはMDから録音する
AUX:	AUX端子に接続した機器から録音する

- 9** CD ダイレクトアンプスイッチ (CD DIRECT AMP) / インジケータ

このスイッチを押すとインジケータが点灯し、インプットセレクターの選択に関係なくCDが優先され再生されます。もう一度押すと解除されます。信号経路はバス、トレブル、バランス、ラウドネス、サブソニックフィルターとプリアウト/メインインの各回路がバスされ、極めてシンプルな回路構成となるため、よりハイクオリティな、CDサウンドがお楽しみいただけます。

- 10** ピュアダイレクトスイッチ (PURE DIRECT) / インジケータ

このスイッチを押すとインジケータが点灯し、バス、トレブル、バランス、ラウドネス、サブソニックフィルターとプリアウト/メインイン端子の各回路がバスされ、シンプルな回路構成となるため、劣化の少ないよりピュアな音が再生できます。もう一度押すと解除されます。CD以外のソースを、持ち味を生かして楽しみたいときにお使いください。

- 11** ヘッドホン端子 (PHONES)

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンだけで聴くときは、スピーカースwitchのA, Bを両方とも“OFF ■”にしてください。深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンのご使用をお勧めします。

- 12** スピーカースwitch (SPEAKERS)

本機に接続されたスピーカースystem (A, B) を選択します。A のボタンを押すと (ON ■) A 端子に接続されたスピーカースystemから、B のボタンを押すと (ON ■) B 端子に接続されたスピーカースystemから音が出ます。A, B 両方のボタンを押すと A, B 両方のスピーカースystemから音が出ます。

## 各部の名称とはたらき

### 13 インプットセクター

再生したいプログラムソースを選択します。

- PHONO: レコードプレーヤーを再生するとき。  
TUNER: チューナー (FM/AM) を聴くとき。  
CD: CDプレーヤーを再生するとき。  
TAPE 1: TAPE 1 端子に接続したテープデッキを再生するとき。  
TAPE 2 (MD): TAPE 2 (MD) 端子に接続したテープデッキまたはMDを再生するとき。  
AUX: AUX端子に接続した機器の音を再生するとき。

### 14 ミューティングスイッチ (MUTING) (AX-892のみ)

一時的に音量を小さくしたいときは、このスイッチを押して“ON ■”にします。元の音量に戻すにはもう一度押して“OFF ■”にします。

### 15 ボリュームコントロール (VOLUME)

音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなり、左に回すほど音量が小さくなります。

リモコンでは、“+”キーを押すと音量が大きくなり、“-”キーを押すと小さくなります。キーを押すと同時に、フロントパネルのボリュームコントロールが連動して回ります。

電源スイッチやインプットセクターなどを操作するとき、レコードに針を上げ下げするときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置 ( ) にしておいてください。

### 16 CD操作キー (CD)

ヤマハのリモートコントロール対応のCDプレーヤーを操作するキーです。CDプレーヤーのリモコンに表示されているキー名称と同じはたらきをします。

- ◀◀: 曲の頭に戻ります。  
▶▶: 次の曲の頭に進みます。  
PLAY ▶: 演奏を始めます。  
◀◀: 早戻しします。  
▶▶: 早送りします。  
⏏: 1度押すと一時停止し、もう1度押すと演奏が停止します。  
DISC: CDチェンジャーのみに対応します。押すたびにディスク番号が変わり、表示された番号のディスクが選ばれます。

詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

### 17 チューナー操作キー (TUNER)

ヤマハのリモートコントロール対応のチューナーを操作するキーです。

- A/B/C/D/E: プリセットのグループ(A/B/C/D/E)を選択します。  
PRESET: プリセットされた放送局を選局します。

### 18 テープデッキ操作キー (TAPE)

ヤマハのリモートコントロール対応のテープデッキを操作するキーです。

テープデッキのリモコンに表示されているキー名称と同じはたらきをします。

- A/B: ダブルデッキのデッキ A とデッキ B の選択をします。  
DIR A: デッキ A のテープ走行方向を選択します。(または、オートリバーステープデッキのテープ走行方向を選択します。)  
DIR B: デッキ B のテープ走行方向を選択します。  
PLAY ▶: 再生を始めます。  
◀◀: ◀◀方向に早送りします。  
▶▶: ▶▶方向に早送りします。  
⏏: 再生または、録音を停止します。  
REC/PAUSE: 録音一時停止状態になります。  
詳しくは、テープデッキの取扱説明書をご覧ください。



# 接続のしかた

接続の際は、本機および接続する機器の電源を必ず“OFF”にしてから行ってください。

接続する機器によっては端子名が異なることがあります。

接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

入・出力端子を接続する場合、市販のピンプラグコードをご用意ください。

接続するときは、各機器のL(左チャンネル)、R(右チャンネル)を確認し、また、スピーカー接続の場合は、極性(+、-)を間違えないよう確認して、確実に接続してください。

本機をヤマハオーディオ機器(CDX-490、TX-480、KX-690など)と接続する場合は、各機器と本機の同じ番号のついた端子を接続してください。[端子番号は今後発売されるヤマハオーディオ機器(CD、カセット、チューナー、コンポなど)にも表示される予定です。]

接続に誤りが無いことを確認してから、本機の電源コードをACコンセントに接続してください。

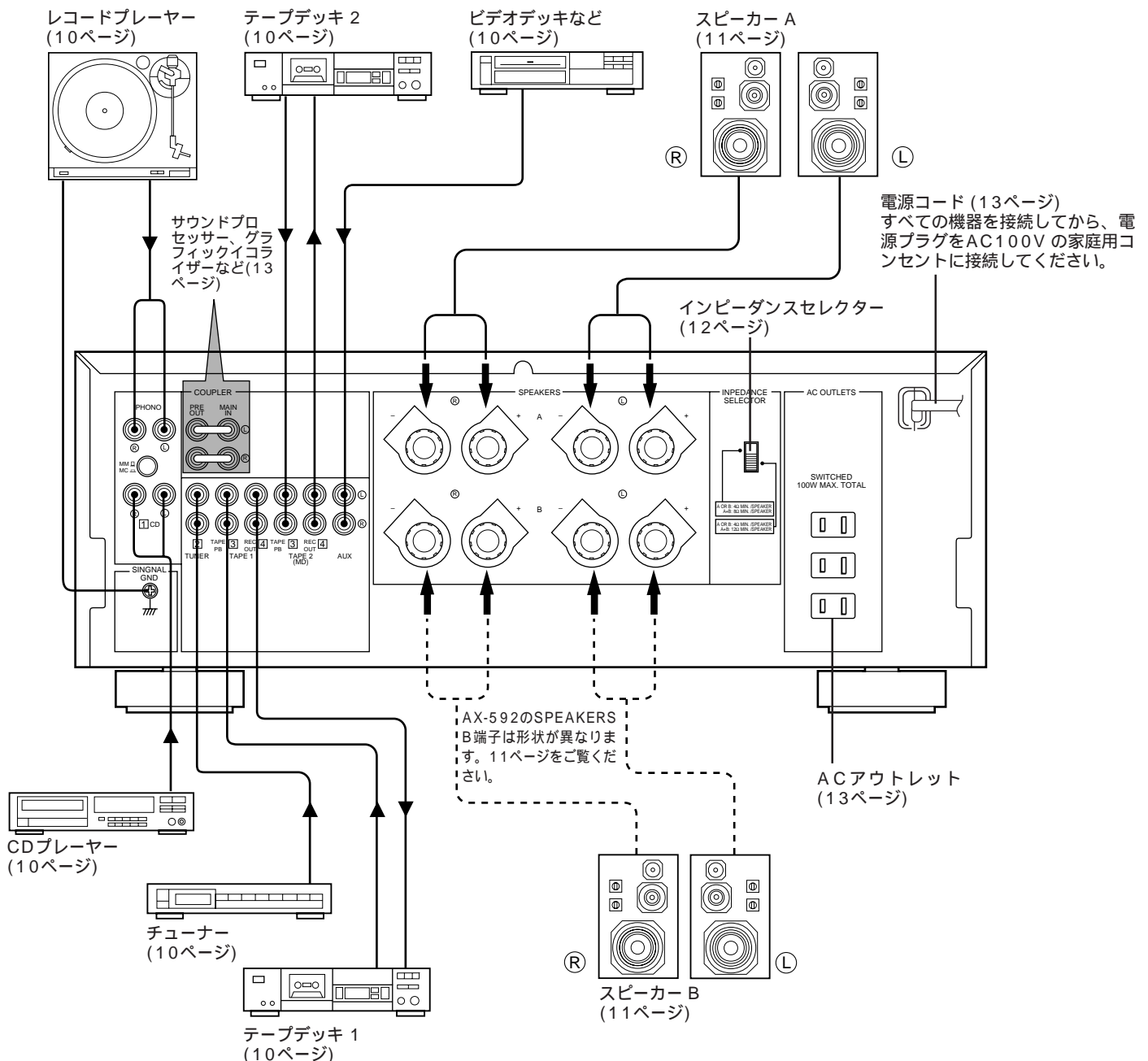
本機が他の機器(テレビ、チューナー)などに影響を与えるようなときは、本機とその機器を影響の出ない距離まで離してください。

## ご注意

インピーダンスセレクターを切り換えるときは、必ず電源を切った状態で切り換えてください。(12ページ参照)

テープデッキを接続している場合、テープデッキの電源を切ると本機の音が歪むことがあります。本機の電源を入れている時は、常にテープデッキの電源も入れてください。

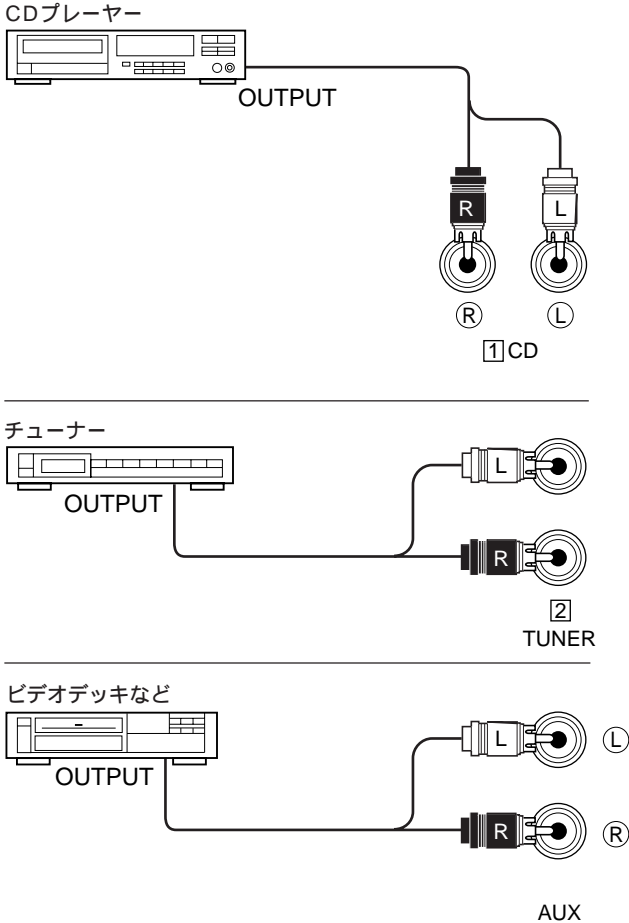
本機の電源を切った状態で、接続した外部機器の音をモニターまたは録音すると、音が歪むことがあります。本機の電源を入れた状態でご使用ください。



# 接続のしかた

## CDプレーヤー、チューナー、その他ビデオデッキなどの接続

CDプレーヤーはCD端子に、チューナーはTUNER端子に、その他ビデオデッキなどの音声出力をAUX端子に、それぞれL、Rを正しく確実に接続します。



## レコードプレーヤーの接続

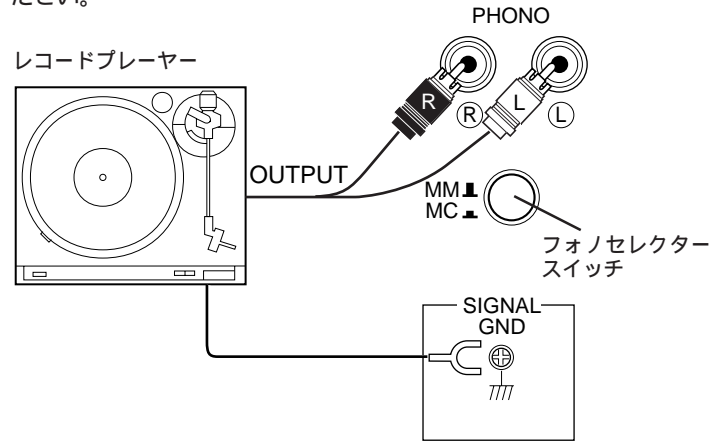
レコードプレーヤー（MMカートリッジ、または高出力MCカートリッジ付）の出力コードをPHONO端子L、Rにしっかり差し込んでください。アース線はGND端子に確実に接続します。

次に、フォノセクタースイッチをカートリッジに合わせてセットします。

MMカートリッジ：MM

MCカートリッジ：MC

スイッチを切り換えるとポップノイズが出ることもあるので、必ずボリュームコントロールを最小の位置にしてから切り換えてください。

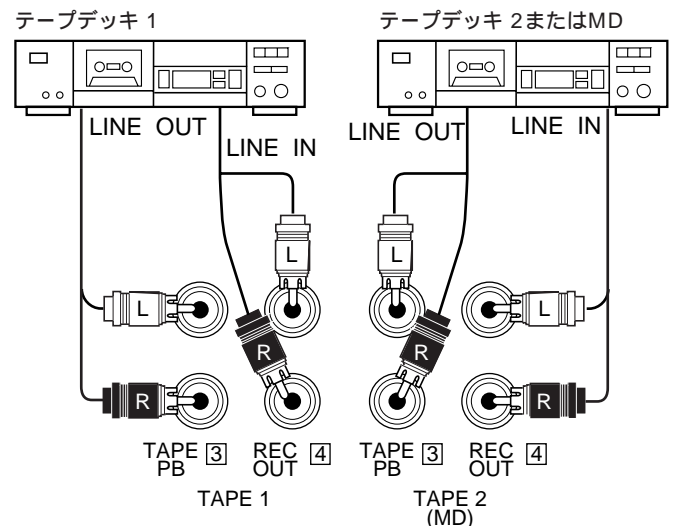


低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランス、またはMCヘッドアンプを使用してPHONO端子に接続してください。

SIGNAL GND端子は安全アースではありません。アナログプレーヤーなどを接続した場合の雑音を低減するものです。（レコードプレーヤーによっては、まれにアース線をGND端子に接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。）

## テープデッキ、MDの接続

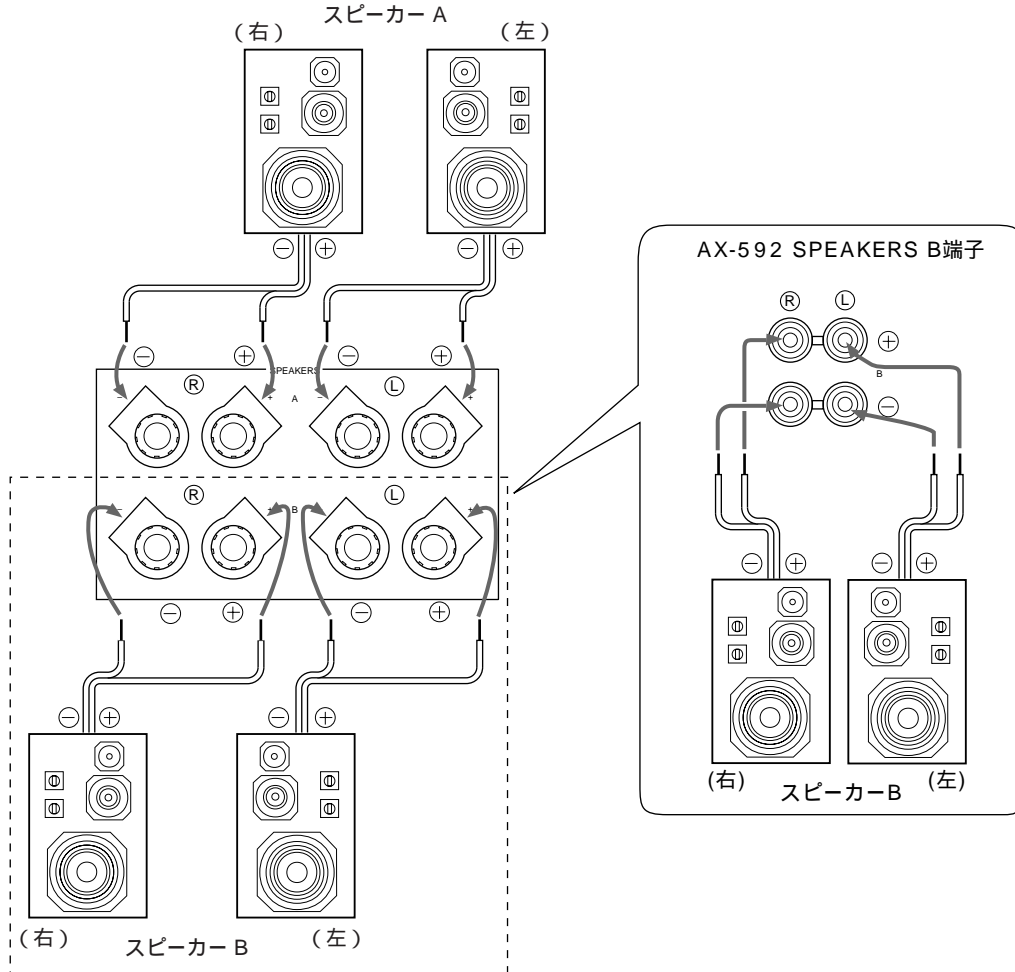
テープデッキのLINE OUT (PLAY) 端子と本機のTAPE PB端子を、テープデッキのLINE IN (REC) 端子と本機のREC OUT端子をそれぞれL、Rを正しく接続します。本機では、TAPE 1、TAPE 2 (MD) 端子にテープデッキやMDを1台ずつ接続できます。



## スピーカーの接続

SPEAKERS A の R 端子に右スピーカーを、L 端子に左スピーカーを接続します。

アンプの + 端子からスピーカーの + 端子へ、アンプの - 端子からスピーカーの - 端子へ極性を間違いないよう確認して、スピーカーコードを接続します。

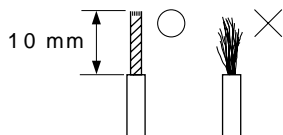


左右の接続や極性を間違えると、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となります。お使いになるスピーカーシステムのインピーダンスに応じて背面のインピーダンスセレクターを必ず設定してください。(12 ページ)

SPEAKERS B にも、SPEAKERS A と同様にもう一組のスピーカーを接続することができます。(参照)

### スピーカーコードの接続

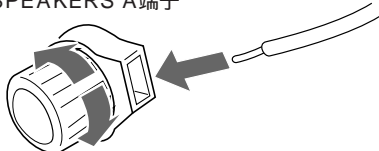
- 1 スピーカコードの先端の絶縁部を 10 mm 位はがし、芯線がバラけてショートしないよう、指でしっかりよじります。



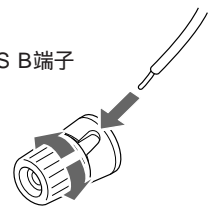
- 2 スピーカ端子を左に回してゆるめ、コードを穴に差し込み、端子を右に回して締めつけます。

芯線部分が穴からはみ出していないかどうかを確認してください。

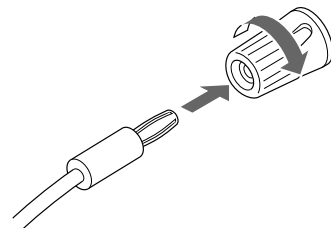
AX-892 SPEAKERS A/B端子  
AX-592 SPEAKERS A端子



AX-592 SPEAKERS B端子



市販のパナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



## インピーダンスセレクターの設定

本機はスピーカーを2セットまでつなげますが、使用方法やお使いになるスピーカーシステムのインピーダンスに応じて背面のインピーダンスセレクター(IMPEDANCE SELECTOR)を下記のように切り換えます。

### ご注意

インピーダンスセレクターを切り換えるときは、必ず電源を切った状態で切り換えてください。電源が入った状態で切り換えると故障の原因になります。

正しく設定しないと本機やスピーカーの故障の原因となる場合があります。

### スピーカー1セットのみ使用（スピーカーA端子に接続する）

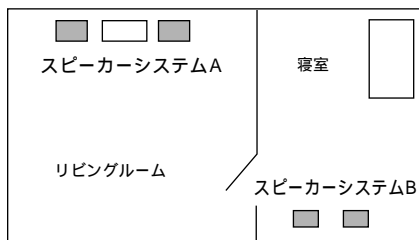
使用するスピーカーのインピーダンス	インピーダンスセレクターの位置
4 ~ 6	
6 以上	

4 未満のスピーカーは使わないでください。

### スピーカー2セット使用（スピーカーA、B両端子に接続する）

スピーカーAとBは同時に鳴らさない（AまたはBを鳴らす）

使用方法の例



スピーカーAとBを同時に鳴らす

この場合は2セットのスピーカーとも8 以上でないと同時に鳴らすことはできません。8 未満のスピーカーは使わないでください。

使用するスピーカーのインピーダンス	インピーダンスセレクターの位置
8 ~ 12 のスピーカーを2セット使用	
12 以上のスピーカーを2セット使用	

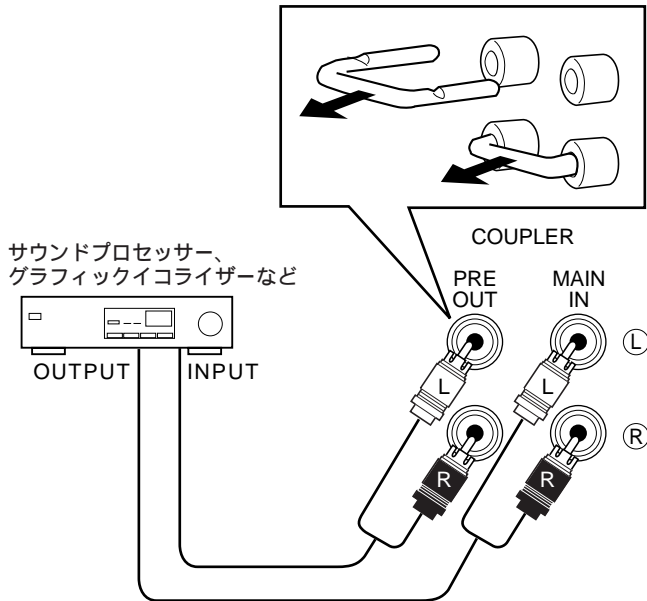
使用するスピーカーのインピーダンス	インピーダンスセレクターの位置
どちらか一方でも 4 ~ 6	
2セットとも 6 以上	

4 未満のスピーカーは使わないでください。

## サウンドプロセッサー、グラフィックイコライザーなどの接続

PRE OUT端子とMAIN IN端子を接続しているジャンパーピンを抜くと、本機のプリアンプ部とメインアンプ部を切り離してそれぞれ独立したアンプとして使用できます。

サウンドプロセッサー、グラフィックイコライザーなどの音声入力端子をPRE OUT端子に、音声出力端子をMAIN IN端子にそれぞれ接続します。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



### ご注意

PRE OUT/MAIN IN端子に接続しない場合は、必ずジャンパーピンを各端子に差し込んでおきます。ジャンパーピンが抜けていると音は出ません。

本機をプリアンプとして使用する場合は、ボリュームコントロールでのシステム全体の音量調節をはじめ、本機の各機能が使えます。（ヘッドホン端子とスピーカースイッチは使えません。）

ただし、ピュアダイレクトスイッチとCDダイレクトアンプスイッチは必ず切ってください。

本機をメインアンプとして使用する場合は、本機の各機能は使えません。（ヘッドホン端子とスピーカースイッチだけを使うことができます。）音量調節は、本機に接続したプリアンプで操作します。

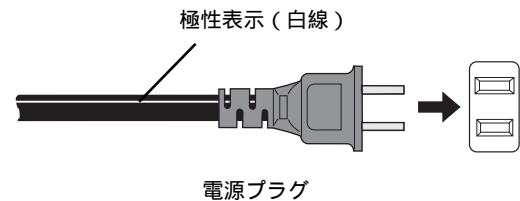
## AC アウトレット (AC OUTLETS SWITCHED)

3個のコンセントに合計消費電力が100Wまでのオーディオ機器を接続することが出来ます。本機の電源スイッチに連動して電源が供給されます。また、本機コンセントの長い方の穴が電源トランスの巻始め側になっています。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性を合わせて差し込んでください。

## 電源コード

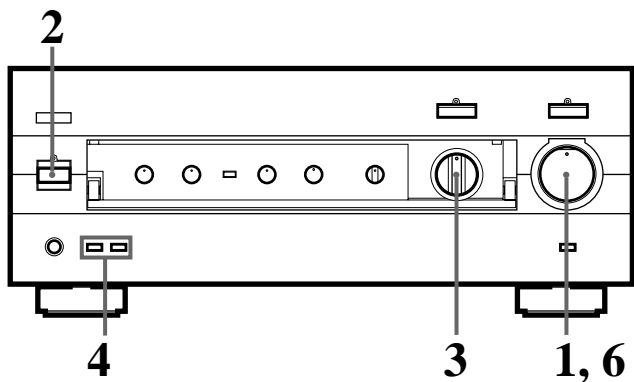
すべての機器を接続してから、電源プラグをAC100Vの家庭用コンセントに接続してください。

消費電力はAX-892が200W、AX-592が180Wです。本機の電源コードには電源トランスの巻始めが極性表示（白線）されています。プラグを差し替えて音質が変わるようでしたら、好みの極性でお使いください。

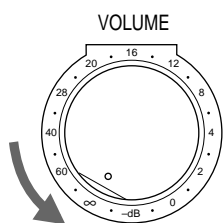




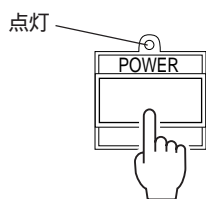
# 再生する



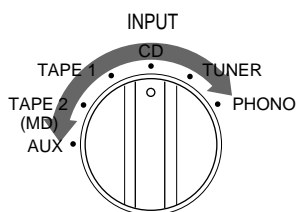
1 本機のボリュームコントロールを“ ”(最小)にする



2 本機と各機器の電源を入れる

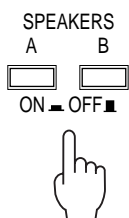


3 インプットセレクターで再生したいソースを選ぶ



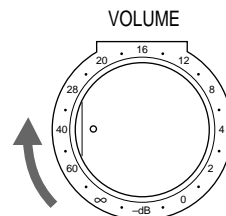
CDダイレクトアンプスイッチを押すと、インプットセレクターの位置にかかわらずダイレクトにCDが選ばれ、クオリティの高いCD再生が楽しめます。(7ページ参照)

4 スピーカースイッチで音を出すスピーカーを選ぶ



5 インプットセレクターで選んだソースを再生する

6 ボリュームコントロールで音量を調節する



お好みに応じて、バス、トレブル、バランス、ラウドネス、サブソニックフィルターでの音質調節やピュアダイレクトを設定します。(6~7ページ参照)

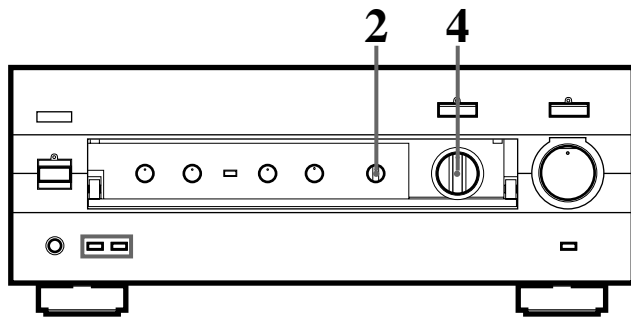
## CDダイレクト、ピュアダイレクトについて

ソースの持ち味や、高度な音質を損なうことなく再生するために、信号は音質調節の各回路やプリアウト/メインイン端子を通らずに出力されます。そのため、バス、トレブル、バランス、ラウドネス、サブソニックフィルターの各機能は動きません。

## ご注意

ラウドネスを設定したまま、CDダイレクトアンプスイッチやピュアダイレクトスイッチを押すと、急激に大音量になることがあります。スイッチを押すときは、あらかじめボリュームコントロールを左に回し、音量を下げてください。

# 録音する



## レックアウトセレクター/インプットセレクターの組み合わせ方

インプットセレクターで選んだソースを聴きながら、別のソースをレックアウトセレクターで選んで録音することができます。

例	インプットセレクターの位置	レックアウトセレクターの位置
CDを聴きながらレコードを録音する		
レコードを聴きながらチューナーの放送を録音する		

- 1** P. 14「再生する」の、手順 1, 2 と同じ操作をする
- 2** レックアウトセレクターで録音したいソースを選ぶ
- 3** テープデッキを操作して録音を開始すると同時に、録音するソースの再生を始める

ソースが正しく再生されているかどうかをボリュームを上げて確認します。  
TAPE 1 端子、TAPE 2 (MD) 端子に接続したテープデッキ(MD)のどちらでも(または両方同時に)録音できます。
- 4** 録音をモニターする場合は、録音しているテープデッキをインプットセレクターで選ぶ

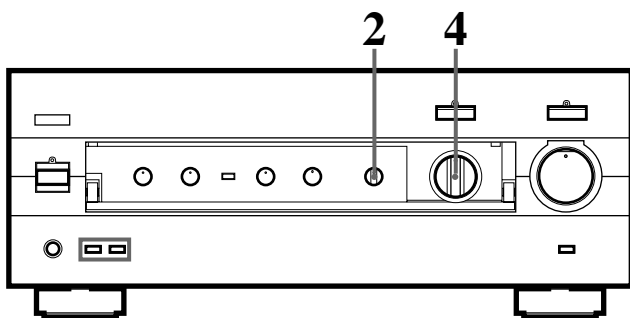
CDダイレクトアンプスイッチは切ってください。

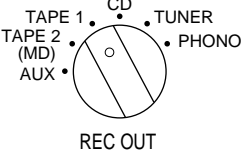
録音中に、ボリューム、バス、トレブル、バランス、ラウドネス、サブソニックフィルターの調節やCDダイレクトアンプ、ピュアダイレクトの設定をしても、録音には影響しません。

## テープダビングをする場合

ダビングはテープデッキ1 “TAPE 1” からテープデッキ 2 “TAPE 2 (MD)” へ、またはテープデッキ2 “TAPE 2 (MD)” からテープデッキ1にすることができます。

ここではテープデッキ1からテープデッキ2へのダビングを説明します。テープデッキ2からテープデッキ1へのダビングでは、テープデッキ1をテープデッキ2に、テープデッキ2をテープデッキ1に置き換えてお読みください。



1	P. 14 「再生をする場合」の、手順 1, 2 と同じ操作をする
2	レックアウトセレクターで TAPE 1 を選ぶ 
3	テープデッキ 2 を操作して録音を開始すると同時に、テープデッキ 1 の再生を始める  インプットセレクターで TAPE 1 を選び、テープデッキ 1 が再生されているかどうかを、ボリュームを上げて確認します。
4	録音をモニターする場合は、TAPE 2 をインプットセレクターで選ぶ CDダイレクトアンプスイッチは切ってください。

ダビング中に、ボリューム、バス、トレブル、バランス、ラウドネス、サブソニックフィルターの調節やCDダイレクトアンプ、ピュアダイレクトの設定をしても、録音には影響しません。

本機を市販のオーディオタイマーと組み合わせることにより、タイマー再生することができます。

## 接続のしかた

1	本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続する
2	本機のACアウトレットにタイマー再生する機器の電源プラグを接続する 本機に接続する機器の消費電力が、ACアウトレットの供給電力(100W)を越えないようにご注意ください。

## 操作のしかた

1	すべての機器の電源を入れる
2	本機のインプットセレクターで、タイマー再生する機器を選ぶ
3	本機のボリュームを適当な音量に調節する
4	タイマー再生の開始時間(必要ならば終了時間も)をオーディオタイマーでセットする セットした時間になると、タイマー再生が始まります。

タイマーの操作や、再生する機器の操作・設定についてはそれぞれの取扱説明書を参照してください。

# 参考仕様

## AX-892

### 定格出力

8 (20Hz~20kHz, 0.015% THD) .....	115W+115W
6 (20Hz~20kHz, 0.03% THD) .....	140W+140W

ダイナミックパワー (IHF ダイナミックヘッドルーム測定による)  
(8 /6 /4 /2 ) .....

150W/200W/250W/330W
---------------------

### ダンピングファクター (スピーカーA)

(20 Hz~20 kHz, 8 ) .....	320 以上
--------------------------	--------

### 入力感度/入力インピーダンス

PHONO MC .....	160 $\mu$ V/250
PHONO MM .....	2.5mV/47k
CD/TUNER/TAPE/AUX .....	150mV/47k
MAIN IN .....	1.0V/30k

### 最大許容入力 (1kHz, 0.007% THD)

PHONO MC .....	10mV
PHONO MM .....	150mV

### 出力電圧 / 出力インピーダンス

REC OUT .....	150mV/0.6k
PRE OUT .....	1.0V/1.2k

### ヘッドホン出力/出力インピーダンス

0.015% THD, RL=8 .....	0.35V/680
------------------------	-----------

### 周波数特性 (20 Hz~20 kHz)

CD/TUNER/TAPE/AUX .....	0 $\pm$ 0.5dB
MAIN IN .....	0 $\pm$ 0.5dB

### RIAA 偏差 (20 Hz~20 kHz)

PHONO MC .....	0 $\pm$ 0.5dB
PHONO MM .....	0 $\pm$ 0.3dB

### 全高調波歪率 (20 Hz~20 kHz)

PHONO MC PRE OUT (3V) .....	0.007%
PHONO MM REC OUT (3V) .....	0.003%
CD/TUNER/TAPE/AUX PRE OUT (1V) .....	0.005%
CD/TUNER/TAPE/AUX SP OUT (57.5W/8 ) .....	0.008%

### SN 比 (IHF A ネットワーク、入力ショート時)

PHONO MC (250 $\mu$ V) .....	70dB
PHONO MM (2.5 mV) .....	86dB
CDダイレクトアンプオン時 .....	110dB

### 残留ノイズ (IHF A ネットワーク)

CDダイレクトアンプオン時 .....	35 $\mu$ V
ピュアダイレクトアンプオン時 .....	90 $\mu$ V

### チャンネルセパレーション

CD/TUNER/TAPE/AUX (5.1 k ) 1kHz/10kHz .....	65dB/50dB
--	-----------

### トーンコントロール

BASS .....	可変幅、 $\pm$ 10dB (20Hz) ターンオーバー周波数、350Hz
TREBLE .....	可変幅、 $\pm$ 10dB (20kHz) ターンオーバー周波数、3.5kHz

### フィルター特性

SUBSONIC FILTER .....	15Hz, -18dB/oct
-----------------------	-----------------

### コンティニューアスラウドネスコントロール

最大補正量 (聴感補正カーブによる) .....	-30 dB (1 kHz)
--------------------------	----------------

オーディオミュートング .....

-20 dB
--------

トラッキングエラー (0 ~ -60 dB) .....

2dB
-----

定格電源電圧、周波数 .....

AC 100V, 50/60Hz
------------------

消費電力 .....

200W
------

AC アウトレット (連動)  $\times$  3 .....

トータル 100W MAX
---------------

外形寸法 (幅  $\times$  高さ  $\times$  奥行き) .....

435 $\times$ 171 $\times$ 396 mm
----------------------------------

重量 .....

13kg
------

付属品 .....

リモコン 単 3 乾電池 2 本
---------------------

参考仕様および外観は予告なく変更されることがあります。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

## AX-592

### 定格出力

8 (20Hz~20kHz, 0.015% THD) .....	100W+100W
6 (20Hz~20kHz, 0.03% THD) .....	120W+120W

ダイナミックパワー (IHF ダイナミックヘッドルーム測定による)  
(8 /6 /4 /2 ) .....

140W/170W/220W/290W
---------------------

ダンピングファクター (スピーカーA)  
(20 Hz~20 kHz, 8 ) .....

320 以上
--------

### 入力感度/入力インピーダンス

PHONO MC .....	160 μV/250
PHONO MM .....	2.5mV/47k
CD/TUNER/TAPE/AUX .....	150mV/47k
MAIN IN .....	1.0V/30k

### 最大許容入力 (1kHz, 0.007% THD)

PHONO MC .....	10mV
PHONO MM .....	150mV

### 出力電圧/出力インピーダンス

REC OUT .....	150mV/0.6k
PRE OUT .....	1.0V/1.2k

### ヘッドホン出力/出力インピーダンス

0.015% THD, RL=8 .....	0.33V/680
------------------------	-----------

### 周波数特性 (20 Hz~20 kHz)

CD/TUNER/TAPE/AUX .....	0 ± 0.5dB
MAIN IN .....	0 ± 0.5dB

### RIAA 偏差 (20 Hz~20 kHz)

PHONO MC .....	0 ± 0.5dB
PHONO MM .....	0 ± 0.3dB

### 全高調波歪率 (20 Hz~20 kHz)

PHONO MC PRE OUT (3V) .....	0.007%
PHONO MM REC OUT (3V) .....	0.003%
CD/TUNER/TAPE/AUX PRE OUT (1V) .....	0.005%
CD/TUNER/TAPE/AUX SP OUT (50W/8 ) .....	0.008%

### SN 比 (IHF A ネットワーク、入力ショート時)

PHONO MC (250 μV) .....	70dB
PHONO MM (2.5 mV) .....	86dB
CDダイレクトアンプオン時 .....	110dB

### 残留ノイズ (IHF A ネットワーク)

CDダイレクトアンプオン時 .....	35 μV
ピュアダイレクトアンプオン時 .....	90 μV

### チャンネルセパレーション

CD/TUNER/TAPE/AUX (5.1 k ) 1kHz/10kHz .....	65dB/50dB
--	-----------

### トーンコントロール

BASS .....	可変幅、±10dB (20Hz) ターンオーバー周波数、350Hz
TREBLE .....	可変幅、±10dB (20kHz) ターンオーバー周波数、3.5kHz

### フィルター特性

SUBSONIC FILTER .....	15Hz, -18dB/oct
-----------------------	-----------------

### コンティニューアスラウドネスコントロール

最大補正量 (聴感補正カーブによる) .....	-30 dB (1 kHz)
--------------------------	----------------

トラッキングエラー (0 ~ -60 dB) .....

2dB
-----

定格電源電圧、周波数 .....

AC 100V, 50/60Hz
------------------

消費電力 .....

180W
------

AC アウトレット (連動) × 3 .....

トータル 100W MAX
---------------

外形寸法 (幅×高さ×奥行き) .....

435 × 151 × 396 mm
--------------------

重量 .....

10.6kg
--------

付属品 .....

リモコン 単 3 乾電池 2 本
---------------------

参考仕様および外観は予告なく変更されることがあります。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。



# 故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

本機使用中に、強い外来ノイズ（落雷・過大な静電気など）を受けた場合や誤った操作をした場合などは、本機が正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切った後で電源コードを抜き、約30秒後に再び接続して操作してください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください
電源が切れてしまい、POWERスイッチを押しても入らない	背面のインピーダンスセレクターの位置がずれている	ツマミを上側または下側に正確にセットしてください。
音が出ない	ボリュームが絞られている  再生したいプログラムソースのインプットセレクターが正しく選択されていない スピーカースイッチがOFFになっている  接続が不完全	本体のボリュームコントロールまたはリモコンのボリュームキーで音量を上げます 再生したいプログラムソースのインプットセレクターを選択してください スピーカースイッチでスピーカーが接続されている端子を選択してください 接続を確認してください
インプットセレクターを切り換えてもCD以外の音が出ない	CDダイレクトアンプスイッチがオンになっている	CDダイレクトアンプスイッチを押し機能を解除してください（インジケータを消す）
片チャンネルの音がでない	バランスコントロールツマミがどちらか一方に回し切られている 接続が不完全	バランスコントロールツマミで左右の音量バランスを調整してください 接続を確認してください
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない	アンプとスピーカーの接続でLとRや極性（+、-）が合っていない	アンプとスピーカーのLとRや極性（+、-）を正しく接続しなおしてください
ハム音がでる	ピンプラグコードの接続が不完全  レコードプレーヤーのアースコードを接続していない	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください アースコードを本機のGND端子に接続してください
レコードを再生すると音が非常に小さいまたは歪む	背面のフォノセレクタースイッチの設定がカートリッジの種類に合っていない	フォノセレクタースイッチをカートリッジの種類に合わせて切り換えてください
ボリュームコントロールを回しても音量があまり上がらない	LOUDNESSコントロールがはたらいている	LOUDNESSコントロールツマミをFLATの位置にセットしてください
ボリュームコントロールを回しても音量があまり上がらなかったり音がはずんだりする。	本機のREC OUT端子に接続された機器の電源がOFFになっている。	本機のREC OUT端子に接続された機器の電源をONにしてください。
バス、トレブル、バランス、LOUDNESS、サブソニックフィルターがはたらかない	CDダイレクトアンプスイッチまたはピュアダイレクトスイッチがオンになっている	CDダイレクトアンプスイッチまたはピュアダイレクトスイッチを押して機能を解除してください（インジケータを消す）
リモコン操作ができない	乾電池が消耗している リモコンの操作距離、角度が不適当  リモコン受光部に強い日光や照明（インバータ蛍光灯など）が当たっている	乾電池を2本とも交換してください 本体のリモコン受光部に対して6m以内、角度30度以内の範囲で操作してください 受光部に強い光が当たらないように置き場所や方向、または照明の位置をくふうしてください

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## 保証期間

お買上げ日より1年間です。

## 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

## 修理料金の仕組み

- 技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

## 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

## 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口

AVお客様ご相談センター

TEL (03) 5488 - 5500

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-0810 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7  
仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184  
TEL (044) 434 - 3100
- 東京 (お持ち込み修理のみ取扱い)  
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11  
TEL (03) 5488 - 6625
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内  
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL (06) 877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内  
TEL (0878) 22 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092) 472 - 2134

## 愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

電源コード・プラグが異常に熱い。  
コゲくさい臭いがする。  
電源コードに深いキズが変形がある。  
製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。  
電源を入れても正常に作動しない。  
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

## ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TEL (053) 460 - 3451

品質保証室 TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

# YAMAHA